苫 道 建 第 １０２号
平成２０年１０月１４日

国土交通省道路局長　様

苫小牧市長　岩倉　博文

今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

貴職におかれましては、日頃から市政に対しましてご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成２０年９月１９日付け国道企第３７号で依頼のありました標記について、別紙のとおり提出いたしますのでよろしくお取り計らい願います。

（担当：都市建設部道路建設課）

様式①

今後の道路行政についての意見・提案

北海道苫小牧市

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

地方自治体の財政事情は、税収の落ち込みや地方交付税の削減など非常に厳しい状況である。これらに対応するためには、徹底した行政改革の推進と事業の見直しが求められており、補助事業の自治体負担分へのさらなる国費の充当など、地域の発展のため安定した事業の財源を確保することが重要と考えている。

様式②

今後の道路行政についての意見・提案

北海道苫小牧市

②－１　地域の現状と抱える課題

○現状	○課題
特定重要港湾苫小牧港は、物流拠点港として北海道経済を支えるとともに、道央圏発展の牽引力として大きな役割を果たしています。現在国内向けの貨物取扱量は全国１位となっており、さらに国際貿易港としての重要性も高まるなか、北米、東南アジア、中国など８航路の外貿コンテナ航路が就航し、取扱量は全道の８割に及ぶなど中核国際港湾として役割はさらに重要となっています。	今後とも北海道経済を支えるなどの役割を果たしていくためには、港を取り巻く時代の需要に適合した港湾機能を確保していくとともに、札幌圏はもとより、旭川圏、道東圏、オホーツク圏など全道的に利用されており、苫小牧港とのアクセス強化による時間短縮を図ることが、輸送コストの縮減に繋がることから、高規格幹線道路をはじめ、国道・道道など生産拠点とを結ぶ道路交通ネットワークの体系的な構築が必要である。
苫小牧の地勢は東西に細長く、土地利用は東地域が工業系、西地域が住居形となっていることから、東西間での相互交通が頻繁に行われ、朝夕のラッシュ時には通過交通とも重なり中心部において慢性的な交通混雑が発生している。これに対し、東西の幹線道路は、国道３６号と道道苫小牧環状線の２路線に限られている。 現在、市域の北側に第３の幹線道路として、美沢錦岡通が都市計画決定されているが、国道３６号を除く約２１Ｋｍが未整備である。	美沢錦岡通の整備には、用地取得、移転・移設補償、数多くの橋梁や構造物など、膨大な事業費が見込まれることから、苫小牧市が事業主体となることは、事業規模などを考慮すると極めて困難であり、昇格させての整備が課題である。

様式　③

今後の道路行政についての意見・提案

北海道苫小牧市

②－２　地域の目指すべき将来像

苫小牧市は、主要な交通の結節点であり、広域的な交流や物流の活発化などの経済活動における自動車利用の定着に伴い、道路整備の促進は一層重要になっています。幹線道路は、地域間交流や物流を支える産業基盤のほか災害時におけるライフラインとしても重要な役割を果たす都市の骨格といえます。今後は、利便性の高い都市生活と活発な産業活動の確保の視点から整備を進める必要があります。

また、生活道路については、市民からの整備要望も多く、限られた予算の中での整備となりますが、今後、高齢者、障がい者等に配慮しつつ、安全で快適な交通環境と人にやさしい道路整備を進めることを求められています。

様式④

今後の道路行政についての意見・提案

北海道苫小牧市

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・高規格幹線道路ネットワークの整備	道内主要な空港・港湾へのアクセス道路の整備を進め輸送の効率化を図ることで、国際物流競争力が強化される。	
	・苫小牧中央インターチェンジの設置	道内は広域分散型で、都市間距離は全国の 1.5～2 倍となっている、高速道路のＩＣ間も長ことから、スマートＩＣを含めた追加ＩＣを設置し、効率的なアクセスを確保することにより、高速道路の利用増進と地域経済の浮揚などの活性化を図ることが出来る。	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	・国道３６号の４車線化。	当市の西地域から室蘭方面へは、国道３６号のみで一部が２車線区間となっており、迂回道路もないのが現状である。 今後予想されている樽前山噴火などの災害活動や復旧対策、さらには交通事故減少に結びつくことから市民に対し安全・安心意識が高まる。	